

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Conatus Suginami				
公表日 2025年3月27日						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	1		・活動の内容に合わせて配置する意識をもう少し持てると良い場面がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	2	2	・プログラム、人数によって体制を調整している。	・グループの状態によっては余裕をもてる配置ができるとよい日もある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	1	・物品の配置を固定にすることで子どもたちが自主的に準備・片付けに動けるようにしている。 ・写真を掲示するなど、新規の子でも活動の様子が伝わるようにしている。	・コラージュが定期的に更新できない時期もある。 ・物品管理のチェックを定期的に行うようにルーティン化を図れると良い。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	0	・子どもたちが掃除をする"おしごとタイム"を設けたり、生活訓練の実習で清掃が入るようにしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	0	・クールダウン時には活動から離れて相談室で休む時間を設けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	2	2		・振り返りの時間をもう少し多く取れるとよい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	・毎年実施をしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	・他サービス事業所スタッフとも定期的に話す機会を設けている。	・長期休みなどは少なくなりやすい傾向があるため、スケジュールに盛り込んでいきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2	・他サービス事業所スタッフも出入りをしたり、他機関連携時に事業所を使ってもらうことで、常に外部の目が入る環境であるため、意識を高めやすい環境である。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	1	・定期的にカンファレンスを実施。	・顧問の専門家（医師、PSWなど）に研修を実施してもらいたい。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	0	・どこまで支援を行うか判断が難しいときもあるが、ご家族と話し合いながら進めている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	0	・心理検査なども実施できるように整えている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	2	2		・地域連携はもう少し積極的に行えるとういと思っており、24年度に実施したハロウィンパレードを中心に地域との連携の仕方を模索している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	0		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	0	・枠組みとしては固定となるようにしつつ、内容はマンネリをしないように考えている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	0	・場合によっては、個別支援も組み合わせでできるようなスケジュールとなっている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	2		・直接やり取りが少ないときがある。対面以外でもやり取りが取れるようにする必要がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	2	・翌日に実施したり、共有ツールを用いて連絡を取り合っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	2	2		・視点を揃えた記録が残せるように、研修する機会なども少し持てると良いと思う。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	1		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	0		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0	・児発管や責任者を中心に2名以上で出席するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	0	・定期的に情報提供を行っている。 ・担当者会議を通して学校訪問を依頼し、学校での様子も把握したり、教員とも直接情報共有などを行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	0	・担当者会議を通して学校訪問を依頼し、学校での様子も把握したり、教員とも直接情報共有などを行っている。	・不登校児の場合、学校へ行っていないため、直接学校との連携に関して難しさを感じることがある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	0	4		・新年度に向けて年長の問い合わせはあるが、実際には情報共有までには至っていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	0	・成人の障害福祉サービスを利用する際には、スタッフ間で情報共有を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	4		・児童発達支援センターとの交流する機会がないため、今後は積極的に情報を発信していきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	2	・公園遊びへ行ったりときには、場所を共有するためルールを守ったり挨拶をするように促している。	・積極的に交流する機会を設けられてはいない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	2		・情報を追っている程度になっているため、今後は積極的に参加をしていきたいと考えている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	・問題行動だけでなく、変化してきている面も送迎時やグループLINEを用いて伝えるように心がけている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1	・生活訓練の利用者による特性プレゼンや、キャンプ前後に家族会を開いている。	・コロナ明け後も現在は頻度が少ないまま推移しているが、どれくらいの頻度が適正なのか模索中。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4	0		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4	0	・不定期ではあるが活動の内容によっては家族やきょうだいも参加できるようにしている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	0	・Facebookを中心に発信をしている。 ・写真のコラージュを掲示したり、コナ新聞を発行して家族にも伝わる機会を作っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	2	・ハロウィンバレーでは、地域の人との交流する機会となっている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	1		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	0	・利用開始時にアレルギーなどについて確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	0	4		・現在、指示書が必要な状態の利用児童がいないが、料理プログラムやおやつ提供があるため、確認は行っている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	0		